

ニュージーランド中銀、マイナス金利を含む追加緩和を真剣に検討

～中銀は NZドル高を警戒する姿勢をみせるなど、当面の NZドル相場の上値を抑える展開を予想～

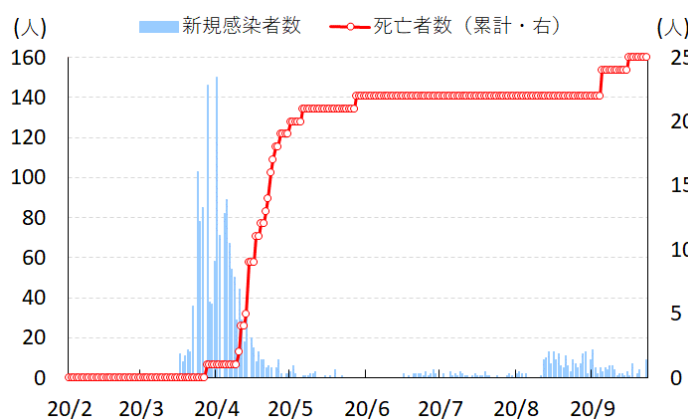
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 03-5221-4522)

(要旨)

- 年明け以降のニュージーランド経済は新型コロナの余波を受けて逆風に直面し、4-6月の実質 GDP 成長率は過去最大のマイナス幅となるなど急減速している。その後は感染収束に伴う経済活動再開で景気回復が期待されたが、最大都市オークランドでの感染再拡大を受けた活動制限の再発動により暗雲が立ち込めている。こうしたなか、中銀は23日の定例会合で政策金利及び量的緩和策の据え置きを決定したが、追加緩和に向けて一段と踏み込む姿勢をみせ、具体策としてマイナス金利の導入を示した。中銀は NZドル高を警戒する姿勢をみせており、追加緩和の示唆も重なり当面の NZドル相場は上値の重い展開が予想される。

年明け以降のニュージーランド経済を巡っては、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) のパンデミック (世界的大流行) による世界経済の減速や世界的なヒトの往来縮小の余波を受ける形で景気に対する逆風が強まる展開が続いてきた。さらに、その後は同国でも新型コロナウイルスの感染拡大の動きが広がり、海外からの入国制限や全土で外出制限を課すなど感染封じ込めに動いた結果、4-6月の実質 GDP 成長率は前期比年率▲40.47%と2四半期連続のマイナス成長となり、9年半ぶりの景気後退局面 (リセッション) 入りするとともに、統計開始以来のマイナス幅となるなど景気は大きく下振れした (詳細は17日付レポート「[ニュージーランドは9年半ぶりにリセッション、先行きにも暗雲がくすぶる](#)」をご参照下さい)。なお、3月末にかけて拡大傾向を強めた新規感染者数は、その後一転して頭打ちしたことで6月以降は大半の経済活動が再開されたほか、隔離措置の徹底により死亡者数もゼロで推移するなど感染封じ込めに成功したかに思われた。しかし、先月

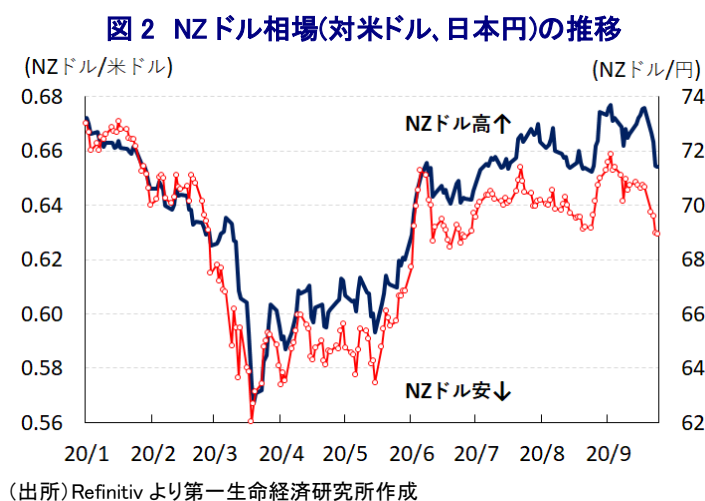
図1 新型コロナの新規感染者数と死亡者数(累計)の推移



(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

に最大都市オークランドで新規感染が確認され、政府は同市の警戒度の引き上げに加え、外出制限を再発動したほか、その後も行動制限を維持するなど感染対策の強化に追い込まれている。その後の新規感染者数は今月初めにかけて再拡大したものの、足下では小康状態が続いているほか累計の死亡者数も25人で推移しており、同国は主要先進国のなかで最も感染抑制に成功した国と捉えることが出来る。他方、新型コロナウイルスの感染再拡大やそれに伴う外出制限及び行動制限の再発動に伴い、製造業を中心に急回復の動きをみせてきた企業マインドは一転頭打ちの様相を強めるなど、足下では景気回復の道筋に

暗雲が立ち込める兆しが出ている。政府は来月に予定される総選挙に向けて、中小企業向け融資制度の期限延長のほか、インフラ関連や環境関連での雇用拡大に向けた財政出動を図るなど景気下支えに向けた取り組みを強化させているものの、景気回復の先行きに暗雲が立ち込めていることを受けて中銀（ニュージーランド準備銀行）が何らかの動きをみせるかが注目された。こうしたなか、中銀は23日に開催した定例の金融政策委員会で政策金利を0.25%で据え置いたほか、先月の定例会合で拡充した大規模資産買い入れ策（LSAP）の規模も1000億NZドルで据え置く一方、「長期的な金融支援が必要である」との認識を示し、具体策として「銀行への政策金利での直接貸付（FLP）、マイナス金利、海外資産の買い入れなど」を挙げた。足下の経済動向については「経済活動は依然新型コロナ流行前の水準を下回っている」との認識を示した上で、「主にオークランドでの活動制限により企業活動のみならず、企業及び消費者マインドは悪化している」とし、先行きについては「不確実性が高く、産業や地域により見通しは不均衡になり得る」との見方を示した。他方、「輸出財価格は堅調に推移しているが、通貨NZドル高の進展によりその効果は一部で相殺されている」とするなど、足下で進行するNZドル高を警戒している様子もうかがえる。その上で、「政府による財政出動により国内の経済活動は支援されているが、賃金補助制度については新規受付が終了するなど一部で



終了している」との認識を示すなど、先行きの景気下振れを警戒する姿勢をみせた。また、「国内外の経済状況の弱さを勘案し、物価及び雇用に対する責務を果たすとともに、金融市場の安定を促すべく金融政策を通じて長期に亘り大規模な経済支援策を提供する必要があるとの認識で一致した」としたほか、「追加的な刺激策を提供する用意があるとの認識でも一致した」とするなど追加緩和に前のめりの姿勢をみせている。このところのNZドル相場を巡っては、米国の追加景気対策期待を背景とする国際金融市場での米ドル安圧力を反映して堅調な動きをみせてきたが、足下ではその動きに一服感が出ている上、中銀が追加緩和に向けた姿勢を一段と強めていることを勘案すれば、当面については上値の重い展開となる可能性が高いと見込まれる。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。